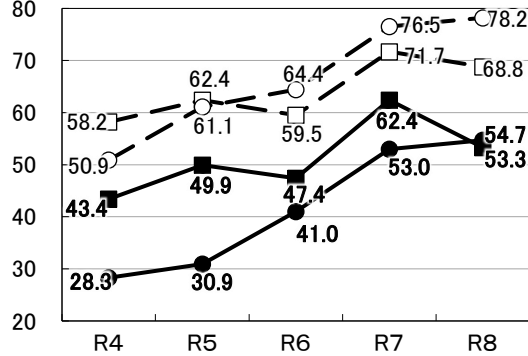


子ども主体の ICT 活用に向けて

● ICT活用は「量」から「質」へ

□35 5年生までに(1、2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか
【児童生徒質問調査】

(%) 「ほぼ毎日」+「週3日以上」と回答



■小学校(香川) □小学校(全国) ●中学校(香川) ○中学校(全国)

教科の正答率とのクロス集計結果(使用頻度)

小学校

質問 番号	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ児童の平均正答率(%)	
			国語	算数
35	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	① ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)	60.0	53.4
		② ほぼ毎日(1日に1回以上の授業で活用)	61.2	54.5
		③ 週3回以上	60.5	54.6
		④ 週1回以上	60.9	55.1
		⑤ 月1回以上	61.3	53.9
		⑥ 月1回未満	52.3	45.8
		差①-⑥	7.7	7.6

中学校

質問 番号	質問事項	選択肢	前年度選択肢を選んだ生徒の平均正答率・平均IRTスコア			
			国語	数学	英語	
35	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	① ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)		62.9	58.1	486
		② ほぼ毎日(1日に1回以上の授業で活用)		63.6	58.3	490
		③ 週3回以上		63.0	58.2	490
		④ 週1回以上		62.2	56.6	486
		⑤ 月1回以上		62.4	57.1	485
		⑥ 月1回未満		55.8	49.8	463
			差①-⑥	7.1	8.3	23

「□35 ICT 機器の使用頻度」を見ると、中学校では年々上昇しているものの、全国との差は依然として大きく(全国比-23.5pt)、小学校では前年度から使用頻度が大きく低下しています。

さらに教科の正答率との関係に目を向けると、本県では、「月1回未満」の層を除けば、使用頻度と学力(正答率)の間に大きな差は見られませんでした。

今後は頻度だけでなく、「子どもの思考をどう深めるか」という活用の質をアップデートすることが求められます。次期学習指導要領を見据えても、ICT 機器を自らの学びを調整し探究するためのツールとして、主体的に使いこなす力がますます重要になります。

● 目的意識が学力を向上させる！子どもが自ら選び、使いこなすICT活用

教科の正答率とのクロス集計結果(活用スキル)

質問番号	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ児童の平均正答率(%)		当該選択肢を選んだ生徒の平均正答率・平均IRTスコア		
			国語	算数	国語	数学	英語
36-1	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますか	① そう思う	66.8	60.7	67.4	63.3	515
		② どちらかといえば、そう思う	58.6	51.5	62.6	57.2	482
		③ どちらかといえば、そう思わない	53.0	45.5	54.7	46.8	447
		④ そう思わない	44.2	38.6	48.0	39.9	422
		差①-④	22.6	22.1	19.4	23.4	93
36-2	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができますか	① そう思う	64.7	58.2	65.6	60.8	502
		② どちらかといえば、そう思う	56.5	49.8	60.5	54.8	476
		③ どちらかといえば、そう思わない	50.8	43.6	51.5	44.0	441
		④ そう思わない	44.0	36.7	45.7	37.7	411
		差①-④	20.7	21.5	19.9	23.1	91
36-3	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますか	① そう思う	66.9	60.7	65.4	61.5	504
		② どちらかといえば、そう思う	60.9	54.6	64.8	60.5	497
		③ どちらかといえば、そう思わない	56.3	49.2	60.3	53.3	474
		④ そう思わない	48.9	41.2	55.6	47.3	453
		差①-④	18.0	19.5	9.8	14.2	51
36-4	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか	① そう思う	67.4	60.7	67.6	63.9	515
		② どちらかといえば、そう思う	60.0	53.7	63.9	59.0	494
		③ どちらかといえば、そう思わない	54.1	47.5	57.2	50.1	456
		④ そう思わない	48.7	41.3	51.8	42.4	434
		差①-④	18.7	19.4	15.8	21.5	81

表を見ると、ICT 機器を使って「文章を作成する」「情報を収集・整理する」「発表のスライドを作成する」ことができると肯定的に回答した児童生徒ほど、小・中学校の全教科において平均正答率が高いという明確な傾向が読み取れます。

この結果は、ICT 機器を単に受け身で使うだけでなく、自分の思考を深め、他者に表現するための手段として使いこなすスキルが、学力の向上に関係していることを示しています。

「何のために使うのか」という目的を明確にし、子どもたちが自らツールを選択して主体的に活用できる場面を、日々の授業に意図的に仕組んでいくことが大切です。

● ICTで自らの学びをデザイン！生徒が主役になる授業

学力向上モデル校の実践に学ぶ

学力向上モデル校、中学校数学の実践を紹介します。生徒が目的をもって ICT を活用し、自らの学びを主体的にデザインする授業です。

導入では、前時の振り返りを共有し、「平方根の計算で、 $\sqrt{\quad}$ の中が大きな数のときはどうすれば簡単に解けるか」という生徒自身の疑問から課題を設定しました。

課題解決の場面では、端末上にクラス全体の「学習進度表」を共有します。生徒自身が「完了」「取組中」「help」といった現在の状況を入力することで、同じ課題に取り組む仲間や、サポートを必要としている友達をリアルタイムで把握できます。生徒は、クラウド上にある多様な問題から取り組む内容を自己決定しつつ、進度表を見て誰と、どのように学ぶかを自ら計画し、調整していました。

このような学習環境は、生徒の主体的な学びを引き出します。友達「help」を見て支援に回り、「そういうときは素因数分解をすればいいよ」などと対話を通じて思考プロセスを共有したり、その後 AI ドリルで自分の理解度を確認めたりする姿が見られました。

生徒の思いを実現できる学習環境を工夫することで、主体的な学びと ICT の効果的な活用を実現した実践と言えるでしょう。



● 「探究×ICT」の相乗効果！目的をもった活用が学力の向上につながる

教科の正答率とのクロス集計結果（総合的な学習の時間）

質問番号	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ児童の平均正答率(%)		当該選択肢を選んだ生徒の平均正答率・平均IRTスコア		
			国語	算数	国語	数学	英語
47	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	① 当てはまる	65.9	59.9	66.7	63.5	511
		② どちらかといえば、当てはまる	60.0	53.8	63.5	58.7	491
		③ どちらかといえば、当てはまらない	56.0	48.8	59.1	52.2	469
		④ 当てはまらない	50.2	44.0	52.9	43.2	441
		差①-④	15.7	15.9	13.8	20.3	70.0
48	総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか	① 当てはまる	66.8	60.7	67.4	64.5	514
		② どちらかといえば、当てはまる	60.0	54.6	64.0	59.3	494
		③ どちらかといえば、当てはまらない	54.5	46.3	57.8	50.6	462
		④ 当てはまらない	47.2	40.2	52.9	43.0	438
		差①-④	19.6	20.5	14.5	21.5	76.0

総合的な学習の時間で、自分で課題を見つけて探究する子どもほど、各教科の正答率が高い傾向にあります。さらに注目したいのは、「情報を集める・まとめる・発表する」場面で、ICT を効果的に使っていると感じる子どもほど、その傾向がより強いという点です。

つまり、「何のために使うのか」という目的意識をもち、ICT 機器を考えを深めたり伝えたりする「手段」として使いこなす経験が、正答率アップにつながる可能性があります。

まずは学校や地域の題材を生かし、子どもが夢中で探究に向かう授業をデザインしてみませんか。そしてそのプロセスの中に、目的をもった ICT 活用を位置付けていくことが重要です。

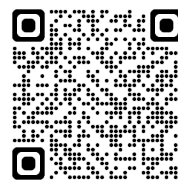
Column これからの時代に必要な「情報活用能力」とは？

次期学習指導要領に向けて、情報活用能力をより一層高めていく方向性が示されています。今後は、小学校の総合的な学習の時間に「情報の領域」が、中学校に「情報・技術科」が新設される予定です。これまで課題となっていた小・中・高の系統性や、生成 AI などの最新技術への対応を見直し、これからは①情報を集め発信する「活用」、②情報モラルを守る「適切な取扱い」、③仕組みを正しく知る「特性の理解」といった3つの力を一体として育てていくことが求められます。

この「情報活用能力」は、すべての教科の学びを支える土台になります。子どもたちが ICT を自在に使いこなせるよう、少しずつ学びの環境をアップデートしていきましょう。

文部科学省「StuDX Style（スタディーエックス スタイル）」

GIGA スクール構想に基づく「1人1台端末」の具体的な活用方法や、各教科・総合的な学習の時間での ICT を手段として活用する全国の優良な実践事例が豊富に集められた特設サイトです。先生方への具体的な紹介に大変役立ちます。



<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>